令和５年２月７日

第３回
運営委員会資料

品川区消防団運営委員会

品川区消防団運営委員会　資料目次

（特別区消防団運営委員会答申案）

資料　　品川区消防団運営員会答申案について（概要）　　Ｐ１－Ｐ２

別紙　　品川区運営委員会答申案　　Ｐ1－Ｐ３

資料

品川区消防団運営委員答申案について（概要）

諮問事項

大規模地震発生時における特別区消防団の消火活動能力を向上させる方策はいかにあるべきか　（審議期間：令和３年１０月から令和５年３月まで）

	審議項目	審議事項	各委員意見の要旨（第１回及び第２回）	各委員意見を踏まえた答申案（赤字は追加及び修正箇所）
1	消防団の特性を踏まえた訓練方策	これまでは、継続的に震災図上訓練や震災時の活動マニュアルの整備は行われてきたが、震災に特化した各種訓練は十分であるとは言えない状況である。	１　大規模地震発生時に想定される被害・消火活動の内容は、地域特性により大きく異なることから、地域特性を踏まえた訓練内容を検討すべきである。 ２　大規模地震に特化したエキスパート団員を養成し、修了者に対してバッチやワッペンを付与して士気向上を図るとともに、大規模地震発生時の活動にも役立つと期待される。 ３　消防団ｅ-ラーニングシステムは、ＩＤやパスワードなどハードルが高く、消防団に限定することなくＹｏｕＴｕｂｅなどで一般に視聴できる体制を構築することが大事かと思います。 ４　火を消すという一方的な目線にならず、倒壊家屋からの救助の仕方を考えていくべきである。 　地域の木造密集地域などの弱点を知ること。消防団がそれを理解していれば、地域防災力の向上に寄与すると考える。 ５　署隊との連携については、大規模火災が発生した際は不可能と個人的には考えます。消防団が中心となって町と連携しなければならないが難しい課題だと考えます。 ６　被害想定を見て、初期消火の重要性を押さえていくことが大事だと思います。初期消火に成功すれば拡大はしない。それをすすめる体制の強化、これが必要な方向かと思います。 ７　木造密集地域、倒壊する恐れのある家屋の近く、そこにいる消防団の自宅であるとかそういう所にスタンドパイプを配備することを要望させて頂きたいと思います。	ア　東京都防災会議により、首都直下地震の被害想定が１０年ぶりに改訂されたことから、品川区の新たな被害想定や木密地域等の地域特性を理解したうえで訓練を計画し実施する必要がある。 イ　消防団 e-ランニングシステムに震災時の消火活動及び延焼阻止活動要領等の新コンテンツを作成し、それらを活用した教育訓練を実施する。 ウ　消防署隊や町会及び自治会等と連携した実践的訓練を実施する必要がある。 エ　消防団 e-ランニングシステム以外にも、手軽に自宅において学習できるよう、訓練操法や震災資器材の取り扱い及び活動要領等が確認できるアプリケーションを充実強化する。 オ　大規模地震時の火災現場等をイメージできる、ＡＲ（拡張現実）やＶＲ（仮想現実）技術を活用した訓練環境を整備する必要がある。 カ　学校研修に、震災時等の大規模災害活動に特化した「エキスパート団員」を新設し、リーダー格の団員として育成する。バッチやワッペン等により一般団員との差別化を図る。また、「エキスパート団員」指導育成のため、消防職員の研修を新設する。 キ　震災時の救助活動要素を取り入れた訓練等を実践していく必要がある。 ク　震災時の消火活動についての初動の対応方策について検討する。

資料

品川区消防団運営委員答申案について（概要）

	審議項目	審議事項	各委員意見の要旨（第１回及び第２回）	各委員意見を踏まえた答申案（赤字は追加及び修正箇所）
2	人的資源 （人材確保）	消防団員数の不足に伴い、大規模地震発生時の災害対応能力低下が危惧される。 若い世代や学生などの消防団員確保のため、消防団活動への更なる理解や周知度を高めるための、入団促進及び入団率の維持・向上方策について審議してきた。	1　消防団に入る若い方が少なく残念である。各町会から２から３名の方が入団して欲しい。 2　各種訓練や講習を積極的に開催し、地域の中で消防団を「顔の見える存在」にすることが大切である。 3　充足率に関しては、町会長にお願いすることで、荏原消防団は充足率の底上げを図り、今でもキープしている。消防団は、地域との関係性を大切にして、品川区、東京消防庁と連携して充足率アップをお願いしたい。 4　消防団員を増やすには民生委員と同じように、各町会から１名から２名の方を推薦して出すような形にしないと増えることは難しい。消防団の方も町会から１名から２名出すような働きかけを、荏原がやって他のところができないわけないので、これを是非すすめて欲しい。 5　定年退職された方やサラリーマンの方を予め準消防団として登録してもらい、顔が見える環境を構築することが必要である。 また、若い世代では、大学と協力関係を築くことが必要だと思います。 6　消防団員不足を解消するには、現実にあるシステムを活用するのも一つの方法だと思います。	ア　学校・町会・地域で実施される救護訓練や防災訓練等で消防団の活躍をみていただき募集活動を活性化させる。 イ　応急救護活動等に特化した機能別団員や、退職した職員や団員への声掛けによる大規模災害団員を確保する。 ウ　可搬ポンプ隊や防災ボランティア活動等で消防団との交流がある中高生等をターゲットしたＳＮＳ等を活用した広報活動を展開し、若い世代の確保に繋げていく。 エ　学生や女性など対象に応じた募集活動を強化し継続する。 オ　町会・自治会と連携を強化して、若い世代の人員確保と人材育成等で交流を図る。
3	物的資源 （資機材・設備）	消防団員の平均年齢の上昇や震災時における長時間活動等、各種活動面での負担軽減に配慮した配置資器材の種類削減や軽量化、消防団施設等の充実強化について審議してきた。	1　団員が高齢化する一方、新入団員でも抵抗なく活動できるよう、装備や資器材に関しては、安全性を確保したうえで使いやすく、少ない力で操作できるものを選択して欲しい。 2　女性団員の参加を促すには、更衣室や休憩スペースの確保は必須である。 3　消防団の施設整備をする際は、東京都のものを活用する制度を考えていく必要がある。 4　可搬ポンプ、備品もどんどん増えていくなかで施設がない。倉庫であるとか施設の配備には、品川区の土地なのか、東京都の土地なのか、連携して作っていただきたいと要望します。	ア　新たな資器材として、消防団員の長距離ホース延長や長時間放水をサーポートするため、電動ホースカーや放水台座付きホースカーを整備する必要がある。 イ　瓦礫の中でもホース延長ができるホースバックや６５ミリホース３本　程度の延長に適しているアルミ製ホース背負い器を整備する必要がある。 ウ　木造密集地域という地域特性を考慮した、スタンドパイプ等の初期消火用資器材の整備を検討する。 エ　可搬ポンプ積載台車の軽量化を図る必要がある。 オ　品川区内においても、車両や資機材の収納と消防団員の待機スペース等が未だ整備されていない分団があるため、整備を推進する。整備については、用地の確保が必要であり、関係機関に協力を求め施設整備を推進する。 カ　女性団員専用の更衣スペースや休憩室などの、スペースを有効に活用したリフォームを実施する。 キ　災害時に長時間滞在することを考慮した折り畳み寝台など仮眠用資機材の整備が必要である。

品川区消防団運営委員会答申

１　諮問事項

本会に対して、令和３年１０月２１日に諮問された事項は次のとおり。

「大規模地震発生時における特別区消防団の消火活動能力を向上させる方策はいかにあるべきか」

２　諮問の趣旨

特別区消防団は、それぞれの地域での密着性を生かしながら、災害発生時においては消火を中心とした活動を積極的に行うとともに、平時においても、火災予防の啓発や住民への各種訓練指導等の役割を担うなど、地域住民から頼られる存在である。

今後、発生が危惧されている「首都直下地震」や「南海トラフ地震」等の震災時においては、その特性を生かした迅速な出場による初期消火をはじめ、木造・防火造建物の密集地域での消火活動、また、消防隊との連携による延焼阻止活動、さらには長時間に及ぶ消火活動など、その役割は普段の活動以上に多岐にわたることが考えられ、東京消防庁との連携を考慮した組織的な対応が必要となる。

このことから、消防団の実践的な対応力の更なる向上が震災時における「より効果的な活動」につながると考えられることから、特別区消防団の消火活動能力の向上方策について諮問するものである。

３　審議期間

令和３年１０月から令和５年３月まで（３回開催）

第１回　令和４年３月（書面開催）

第２回　令和４年７月１３日

第３回　令和５年２月７日

４　審議の方向性

⑴　消防団の特性を踏まえた訓練方策

これまでは、継続的に図上訓練や震災時の活動マニュアル等の整備は行われてきたが、震災に特化した各種訓練は十分であるとは言えない状況である。時間的制約のある消防団員が、効率的で効果の高い活動能力向上方

策について、実践的な訓練方策とＤＸを見据えたデジタル環境を活用した訓練方策について審議する。

⑵　人的資源（人材確保）

消防団員数の不足に伴い、大規模地震発生時の災害対応能力低下が危惧される。若い世代や女性、学生などの消防団員確保のため、消防団活動への更なる理解や周知度を更に高めるための、入団促進及び充足率の維持向上方策について審議する。

⑶　物的資源（装備資器材・団本部施設）

消防団員の平均年齢上昇や震災時における長時間活動等、各種活動面での負担軽減に配慮した配置資器材の種類削減や軽量化、団本部施設の充実強化について審議する。

５　答申

⑴　消防団の特性を踏まえた訓練方策

ア　東京都防災会議により、首都直下地震の被害想定が１０年ぶりに改訂されたことから、品川区の新たな被害想定や木密地域等の地域特性を理解したうえで訓練を計画し実施する必要がある。

イ　消防団 e−ランニングシステムに震災時の消火活動及び延焼阻止活動要領等の新コンテンツを作成し、それらを活用した教育訓練を実施する。

ウ　消防署隊や町会及び自治会等と連携した実践的訓練を実施する必要がある。

エ　消防団ｅ−ランニングシステム以外にも、手軽に自宅においても学習できるよう、訓練操法や震災資器材の取り扱い及び活動要領等が確認できるアプリケーションを充実強化する。

オ　大規模地震時の火災現場等をイメージできる、ＡＲ（拡張現実）やＶＲ（仮想現実）技術を活用した訓練環境を整備する必要がある。

カ　消防学校研修に、震災時等の大規模災害活動に特化した「エキスパート団員」を新設し、リーダー格の団員として育成する。バッヂやワッペン等により一般団員との差別化を図る。また、「エキスパート団員」指導育成のため、消防職員の研修を新設する。

キ　震災時の救助活動要素を取り入れた訓練等を実践していく必要がある。

ク　震災時の消火活動についての、初動の対応方策について検討する。

⑵　人的資源（人材確保）

ア　学校・町会・地域等で実施される救護訓練や防災訓練等で消防団の活躍をみていただき募集活動を活性化させる。

イ　応急救護活動等に特化した機能別団員や、退職した職員や団員への声掛けによる大規模災害団員を確保する。

ウ　可搬ポンプ隊や防災ボランティア活動等で消防団との交流がある中高生等をターゲットしたＳＮＳ等を活用した広報活動を展開し、若い世代の確保に繋げていく。

エ　学生や女性など対象に応じた募集活動を強化し継続する。

オ　町会・自治会等と連携を強化して、若い世代の人員確保と人材育成等で交流を図る。

⑶　物的資源（装備資器材・消防団施設）

ア　新たな資器材として、消防団員の長距離ホース延長や長時間放水をサポートするため、電動ホースカーや放水台座付きホースカーを整備する必要がある。

イ　瓦礫の中でもホース延長ができるホースバックや６５ミリホース３本程度の延長に適しているアルミ製ホース背負い器を整備する必要がある。

ウ　木密地域という地域特性を考慮した、スタンドパイプ等の初期消火用資器材の整備を進める必要がある。

エ　可搬ポンプ積載台車の軽量化を図る必要がある。

オ　品川区内においても、車両や資機材の収納と消防団員の待機スペース等が未だ整備されていない分団があるため、整備を推進する。整備については、用地の確保が必要であり、関係機関に協力を求め施設整備を推進する。

カ　女性団員専用の更衣スペースや休憩室などの、スペースを有効に活用したリフォームを実施する。

キ　災害時に長時間滞在することを考慮した折り畳み寝台など仮眠用資機材の整備が必要である。

議事録

委員会：令和５年　第３回品川区消防団運営委員会
日時：令和５年２月７日（火）　午前 10 時 00 分から午前 11 時 00 分まで
場所：品川区第二庁舎４階　災害対策本部室

１　開会
（五十嵐災害対策担当課長）
皆さん、おはようございます。定刻となりましたので、ただいまから第３回品川区消防団運営委員会を開催いたします。本日の司会を務めさせていただきます、品川区災害対策担当課長の五十嵐でございます。よろしくお願いいたします。着座にて進行させていただきます。
最初に、お手元に配布しました資料の確認をさせていただきます。資料は、品川区消防団運営委員会次第、品川区消防団運営委員会名簿、令和５年第３回品川区消防団運営委員会座席表、以上の３点でございます。次に、事前に送付いたしました運営委員会の資料をご用意願います。資料は、第３回運営委員会資料表紙、品川区消防団運営委員会資料目次、Ａ３横２枚になります品川区消防団運営委員会答申案について（概要）。そして、３ページものになります品川区消防団運営委員会答申案となります。そちらに不足がございましたらお知らせください。
続きまして、本委員会の公開についてお知らせいたします。本委員会は東京都情報公開条例に基づき、審議及び議事録が公開となります。ご理解の程よろしくお願いいたします。それでは次第に沿って進めさせていただきます。まず、はじめに委員長から皆様にご挨拶いただきたいと思います。委員長、お願いします。

２　委員長あいさつ
（森澤委員長）
おはようございます。本日はお忙しいところ、品川区消防団運営委員会にご参集賜りまして誠にありがとうございます。この度、品川区長として品川区消防団運営委員会の委員長に就任をいたしました、森澤恭子でございます。甚だ微力ではございますが、区民の安全・安心のために日夜活動していただいている区内各消防団の充実・強化に向けて、誠心誠意努力をいたす所存でございます。何卒ご指導・ご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願いを申し上げます。
さて、本委員会は一昨年の令和３年 10 月、都知事からの諮問である「大規模地震発生時における特別区消防団の消火活動能力を向上させる方策はいかにあるべきか」を受けまして、濱野前区長のもと、これまで２回の審議を重ねてきたところでございます。本日は答申に向けて最後となります３回目の運営委員会となりますが、これまでの審議結果を踏まえ、品川区としての答申内容を決定いたします。答申内容には大きく分けて、東京都や東京消防庁に要望するものと、区に対して要望されるものがございます。委員長として都に答申する内容はもとより、区長として区に対して要望される事項をしっかりと内容を確認し、消防団に対して必要な支援を確実に実施してまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。限られた時間ではありますが、委員の皆様からの忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げまして、甚だ簡

単ではございますが、委員長の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

（五十嵐災害対策担当課長）
　委員長、ありがとうございました。本日ですが、定員 19 名中 19 名の委員の方に出席いただいております。定足数は十分に満たしておりますのでここでご報告させていただきます。それでは、これより本日の議題に移りたいと思います。議事進行につきましては、委員長、よろしくお願いいたします。

３　議題
（森澤委員長）
　はい。それでは本日の議題を進めさせていただきます。本日傍聴の申し出がありませんでしたので、そのまま議事を進行いたしたいと思います。それでははじめに、東京都知事からの諮問事項である「大規模地震発生時における特別区消防団の消火活動能力を向上させる方策はいかにあるべきか」の答申案を議題に供します。品川消防署根本警防課長、ご説明をお願いいたします。

（根本品川消防署警防課長）
　はい。品川消防署警防課長、根本でございます。本日はよろしくお願いいたします。着座にて説明をさせていただきます。本日、第３回の運営委員会は諮問事項であります「大規模地震発生時における特別区消防団の消火活動能力を向上させる方策はいかにあるべきか」につきまして、答申に向けた最後の運営委員会となります。よろしくお願い申し上げます。これまでの運営委員会の経過につきましては、令和３年 10 月諮問を受けまして、第１回は令和４年３月にコロナの影響により書面会議となりました。第２回は令和４年７月に委員の方々のご参加をいただき、対面で実施をいたしました。また、第２回終了後には、委員の皆様からいただいたご意見に対する回答や対応策についての資料を送付させていただきまして、その資料に対する最後のご意見はございませんでした。本日の資料の確認は先ほどございましたが、お手元の資料とともに説明を進めさせていただきます。説明資料につきましては、Ａ３版横サイズの品川区消防団運営委員会答申案について（概要）の２枚、２ページでございます。
　それでは１ページをご覧ください。この資料の構成は、運営委員会でご審議いただいてきた項目、審議項目と審議事項、委員の方々の第１回・第２回の意見の要旨や方向性、一番右側の枠がその意見を反映させた答申案をまとめたものでございます。第２回のご審議でのご意見を答申案へ反映させたところにつきましては、赤字で追記修正となっております。それ以外の部分につきましては、第２回と変更はございません。
　それでは説明に入らせていただきます。これまで三つの審議項目でご審議をいただいてまいりました。一つは消防団の特性を踏まえた訓練方策。二つ目は人的資源。三つ目は物的資源。この三つの項目でご審議をいただいてまいりました。まず１ページ目の審議項目１、消防団の特性を踏まえた訓練方策についてです。審議事項といたしましては、震災活動のマニュアルはあるものの、震災に特化した各種訓練が十分行われているとは言えない中、時間的制約のある消防団員の

効率的で効果の高い活動能力向上方策について、実践的な訓練方策とＤＸを見据えたデジタル環境を活用した訓練方策についてご審議をいただきました。真ん中の欄は第１回・第２回のご意見や方向性、一番右側の枠はそれを踏まえた答申案となっております。

まず、第１回及び第２回の各委員のご意見の要旨と方向性につきまして、１番、大規模地震発生時に想定される被害・消火活動の内容は、地域特性により大きく異なることから、地域特性を踏まえた訓練内容を検討すべきであるというご意見に対しまして、答申案のア、東京都防災会議により、首都直下地震の被害想定が 10 年ぶりに改訂されたことから、品川区の新たな被害想定や木密地域等の地域特性を理解したうえで訓練を計画し実施する必要があるという答申案としております。

ご意見の２番、真ん中の列です。大規模地震に特化したエキスパート団員を養成し、修了者に対してバッチやワッペンを付与して士気向上を図るとともに、大規模地震発生時の活動にも役立つと期待されるというご意見に対しましては、答申案のカにございます、学校研修に、震災時等の大規模災害活動に特化したエキスパート団員を新設し、リーダー格の団員として育成する。また、バッチやワッペン等により一般団員との差別化を図る。また、エキスパート団員の指導育成のため、消防職員の研修を新設するという答申案としております。

真ん中の枠、ご意見の３番、消防団ｅ－ラーニングシステムは、ＩＤやパスワードなどハードルが高く、消防団に限定することなく YouTube などで一般に視聴できる体制を構築することが大切かと思います。このご意見に対しましては、答申案のイ、エ、オに反映させてございます。答申案のイ、消防団ｅ－ラーニングシステムに震災時の消火活動及び延焼阻止活動要領等の新コンテンツを作成し、それらを活用した教育訓練を実施する。エ、こちらは第２回のご意見を反映して赤字で追記修正をしてございます。消防団ｅ－ラーニングシステム以外にも、手軽に自宅において学習できるよう、訓練操法や震災資機材の取り扱い及び活動要領等について確認ができるアプリケーションを充実強化する。また、続いて、オ、大規模地震時の火災現状等をイメージできる、ＡＲ（拡張現実）やＶＲ（仮想現実）技術を活用した訓練環境を整備する必要がある。この三つを答申案としております。

ご意見の４番につきまして、火を消すという一方的な目線にならず、倒壊家屋からの救助の仕方を考えていくべきである。この前段につきましては、答申案のキに新たに追記してございます。震災時の救助活動要素を取り入れた訓練等を実践していく必要がある。荏原消防団につきましては、これまでも熱心に震災時の救助活動の訓練なども実施されておられますが、多くの消防団にこういった訓練を取り入れていくことを答申とさせていただいております。また、４番の意見の後段、地域の木造密集地域などの弱点を知ること、消防団がそれを理解していれば地域防災力の向上に寄与すると考える。こちらにつきましては、答申案のアに踏まえてございます。

ご意見の５番、署隊との連携については大規模火災が発生した際は不可能と個人的には考えます。消防団が中心となって町と連携しなければならないが難しい課題だと考えます。こちらのご意見につきましては、答申案右側のウ、消防署隊や町会、自治会と連携した実践的な訓練を実施する必要がある。これまでも消防団と町会・自治会との訓練は実施しているところではありますが、さらに充実強化を図ってまいりたいと思います。

ご意見の６番、被害想定を見て、初期消火の重要性を押さえていくことが大事だと思います。

初期消火に成功すれば拡大しない。それをすすめる体制の強化、これが必要な方向かと思います。こちらにつきましては、答申案のクに新たに追記してございます。また、７番、木造密集地域、倒壊する恐れのある家屋の近く、そこにいる消防団の自宅であるとか、そういうところにスタンドパイプを配備することを要望させていただきたいと思います。この６番と７番のご意見を踏まえまして、答申案のク、震災時の消火活動についての初動の対応方策について検討すると答申案を追記してございます。また、こちらのご意見につきましては後ほど説明させていただきます、審議項目３番の資機材の部分についても答申案に反映をさせていただいております。審議項目１番の消防団の特性を踏まえた訓練方策についての答申案は以上でございます。

１枚お捲りいただきまして、２ページ目でございます。審議項目の２番、人的資源（人材確保）でございます。審議事項といたしましては、消防団員数の不足、大規模地震時の災害対応能力の低下が危惧され、若い世代や学生などの消防団員の確保や入団促進、入団率の維持・向上についてご審議をいただいております。

真ん中の列でございます。第１回・第２回の各委員からのご意見の要旨、また、方向性について右側の欄が答申案となっております。まずご、意見の１番２番３番４番をご説明いたします。１番、消防団に入る若い方が少なく残念である。各町会から２、３名の方が入団してほしい。各種訓練や講習を積極的に開催し、地域の中で消防団を顔の見える存在にすることが大切である。３番、充足率については町会長にお願いすることで荏原消防団は充足率の底上げを図り、今でもキープをしている。消防団は地域との関係を大切にして、品川区、東京消防庁と連携して充足率アップをお願いしたい。４番、消防団員を増やすには、民生委員と同じように各町会から１名から２名の方を推薦して出すような形にしないと増えることは難しい。消防団の方も町会から１名２名出すような働きかけを荏原がやって他のところができないわけではないので、是非これをすすめてほしい。この１番から４番のご意見を踏まえまして、右側の欄、答申案のア、学校・町会・地域で実施される救護訓練や防災訓練等で消防団の活躍を見ていただき、募集活動を活性化させる。また、新たに追記しておりますが、オ、町会・自治会等と連携を強化して、若い世代の人員確保と人材育成等で交流を図るという答申案を踏まえて入れております。

ご意見の５番、定年退職された方やサラリーマンの方を予め準消防団として登録してもらい、顔が見える環境を構築することが必要である。こちらの前段につきましては答申案のイ、応急救護活動等に特化した機能別団員や、退職した職員や団員への声かけによる大規模災害団員を確保するというふうに答申案に入れてございます。また、ご意見の５番の後段、若い世代では、大学と協力関係を築くことが必要だと思います。こちらについては、答申案の右側、エ、学生や女性など対象に応じた募集活動を強化し継続するとしております。また、大学と協力関係を築くというところに関しましては、品川消防団では、東五反田にございます東京医療保健大学五反田キャンパスの女子大学生８名が品川消防団に学生団員として 12 月に入団いたしまして、入団辞令交付式と入団募集にご協力いただきました大学に、消防団協力事業所表示証を交付いたしております。また、新入生入学頃の時期を捉えて、連携して入団募集の働きかけを継続して行ってまいりたいと思っております。

ご意見の６番、最後でございます。消防団員の不足を解消するには、現実にあるシステムを活用するのも方策の一つだと思います。こちらにつきましては、ア、ウ、オに反映させてございま

すが、ウ、可搬ポンプ隊や防災ボランティア活動等で消防団と交流がある中高生等をターゲットにしたＳＮＳ等を活用した広報活動を展開し、若い世代の確保につなげていくというところに反映してございます。また、現実にあるシステムの活用という面に関しましては、品川消防団ではFacebook ですとか、そういったものでも情報発信をして、若い世代をターゲットに消防団の活動を周知しております。２番、人的資源のご説明については以上でございます。

続いて３番、物的資源（資機材・設備）についてです。審議事項は、消防団員の平均年齢の上昇や震災時における長時間の活動、各種活動面での負担軽減に配慮した資機材の種類、軽量化、消防団施設の充実強化についてご審議をいただいてまいりました。真ん中の列でございます。第１回・第２回の各委員のご意見の要旨・方向性でございます。

１番、消防団員は高齢化する一方、新入団員でも抵抗なく活動ができるよう、装備や資機材に関しては安全性を担保したうえで使いやすく、少ない力で操作できるものを選択してほしい。こちらにつきましては、答申案のア、イ、ウ、エ、キに反映をさせております。答申案のア、新たな資機材として、消防団員の長距離ホース延長や長時間放水をサポートするため、電動ホースカーや放水台座付きホースカーなどを整備する必要がある。イ、瓦礫の中でもホース延長ができるホースバックや、65 ミリホース３本程度の延長に適しているアルミ製ホース背負い器を整備する必要がある。ウ、こちらについては先ほど１番の訓練方策のところでも申し上げました追加事項でございます。木造密集地域という地域特性を考慮したスタンドパイプ等の初期消火用資機材の整備を検討する、と新たにウを入れております。エ、可搬ポンプ積載台車の軽量化を図る必要がある。飛びましてキ、災害時に長時間滞在することを考慮した、折り畳み寝台など仮眠用資機材の整備が必要である。こういったことで１番のご意見に対して、消防団の資機材として答申案に五つ入れてございます。

ご意見の２番３番４番を続いてご説明いたします。２番、女性団員の参加を促すには更衣室や休憩スペースの確保は必要である。３番、消防団の施設整備をする際には東京都のものを活用する制度を考えていく必要がある。４番、可搬ポンプ、備品もどんどん増えていく中で施設がない。倉庫であるとか施設の配備については、品川区の土地なのか東京都の土地なのか、連携して作っていただきたいと要望します。以上の２、３、４のご意見を踏まえまして、答申案のオ、品川区内においても、車両や資機材の収納と消防団員の待機スペース等が未だに整備されてない分団があるため、整備を推進する。整備については用地の確保が必要であり、関係機関に協力を求め、施設整備を推進する。２番の女性団員の参加については、答申案のカ、女性団員専用の更衣スペースや休憩室などのスペースを有効に活用したリフォームを実施する。以上の答申案が３番、物的資源でございます。これまでの運営委員会、第１回・第２回の各委員からのご意見や方向性に対する答申案の概要についての説明は以上でございます。

（森澤委員長）

説明が終わりました。ありがとうございます。ただいまの説明についてご意見・ご質疑がございましたら、挙手にてお願いをいたします。

（小口委員）

産業カウンセラーの小口と申します。よろしくお願いいたします。１ページ目のエキスパート団員についてご提案をさせていただいたのですけれども、こちらですが、是非惨事ストレスについて、カリキュラムの中へ一緒に入れていただきたいと思っております。実は、消防職員の方には惨事ストレスに対するアフターケアというか、そちらのほうの制度はもうできていると伺っておりますけれども、消防団員の皆さんも惨事ストレスに対してどうなのかというところで調べてまいりました。実は、東京都さんのほうで去年の７月に令和４年度惨事ストレス対策団員補充養成講座というのを実施していただいているそうです。これは一部の消防団の方にやっていただいているようなのですけれども、エキスパート団員を育てる時も、このストレス対策団員補充養成講座も是非含めていただきたいと思っておりますので、追加として申し上げました。よろしくお願いいたします。

（森澤委員長）
ありがとうございます。何かございますか？

（根本品川消防署警防課長）
はい。ご意見ありがとうございます。惨事ストレスケア、災害現場で支援者となる消防職員または消防団員の方々も、悲惨な災害時には一定の心理的な負担、ストレスを感じるということは通常のことでございます。それに対しまして、東京消防庁では惨事ストレスケアということで職員に対する、また、活動隊に対するケアを行っております。これについては、消防団の方々に対しても惨事ストレスケアを実施するシステムはございます。また、消防団員の方々に対しての惨事ストレスケアに対する教養、講義、講座とか、そういったものも実施をしているところでございます。今、ご意見いただきましたとおり、一般の団員以外のエキスパート団員とか、大規模災害時に活動するような団員の方々に対しては、メンタル的な細やかなケアができるような団員を育てていくということも大切かと思いますので、ご意見を踏まえさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

（森澤委員長）
ありがとうございました。その他にございますか。

（阿部委員）
東京都議会議員の阿部祐美子と申します。様々な意見をこのような形でいただきまして、本当にありがとうございました。改めて全体を見まわした時に、品川区の特性の一つであります、集合住宅やマンションに関する記述がないということに、今更ながら気づきまして申し訳ございません。その中で、例えば木造密集地域のような課題は少ないとは思うのですけれども、発災前の啓発、あるいは発災後の被害状況の情報交換とか、そういったことでも消防団の連携が取れると思います。ここで既に町会・自治会との連携というのがありますので、そこに「等」を入れて、マンション管理組合との連携についてもご配慮いただければと思います。以上です。

（森澤委員長）
　ありがとうございます。根本課長、お願いします。

（根本品川消防署警防課長）
　はい。ご意見ありがとうございます。品川区の地域特性ということで、木密地域もあれば、集合住宅、高層マンションが建っている地域もございます。地元と消防団の方々が連携した、地域特性を踏まえた訓練とか災害時の対応、そういったところも「等」を入れて、マンション管理組合と連携するというものも踏まえまして答申案とさせていただきたいと思います。

（森澤委員長）
　ありがとうございます。その他にございますか。

（松本委員）
　ありがとうございます。区議会議員の松本です。文言で、これまで確認しておけば良かったと思ったのですけれども、１ページ目のカのところで、学校研修というふうに書いていただいています。学校研修とは、具体的にどういうところをイメージされていますか。よろしくお願いします。

（根本品川消防署警防課長）
　はい。東京消防庁の消防学校の中に、東京都の消防団に対する教育訓練所も兼ねております。そのことを、消防学校で行う研修でございますので学校研修という文言にさせていただいております。説明不足で申し訳ございません。

（松本委員）
　ありがとうございます。たぶんそういうとこだろうと思ったのですが、２ページ目のアのほうでは、学校というのがたぶん小学校とか中学校のイメージかと思うのです。答申案に学校という同じ言葉があって、１ページ目のほうは消防学校という意味かと思うので、これまでに申し上げておけばよかったのですが、ここは表記を変えて消防学校と書いたほうが誤解を生まないのかなと思いますので是非よろしくお願いします。
　あと、例えば２ページ目のエのところで、学生や女性など対象に応じた募集活動を強化し継続するという表現があって、これはもちろんそのとおりなのですけれども、実際にどう具体化していくのかというのが大事なことだと思っています。これは必ずしも東京都だけではなくて、今日は委員長、区長がいらっしゃっているので、あくまで意見・要望というところで申し上げさせていただければと思います。例えば、今、学生が奨学金をもらっていると。品川区も今、学生向けの奨学金制度を用意していますけれども、例えば奨学金、貸与ではなくてあげますというふうな時に、あげる条件に地域貢献とかという条件を入れていただく。海外だと実際にボランティアをする学生に対して奨学金をあげますという制度とかもあります。消防団についてもやはり学生さんに入っていただくということがなかなかないと思います。そういう人たちに対して、品川区も

折角独自の奨学金制度を用意していますから、奨学金がほしいという人は是非地域貢献、消防団にも活動してほしいというふうなことを設けていただく。これは品川区でできることだと思うので是非要望したいと思います。

あともう１点、今の若いところといったら、これはこの委員会の運営方法についてで、今日でもう答申案確定していくので、今回ではなくて、また今後こういう機会がある際に是非運営でお願いしたいのですけれども。今日は私も含めて、委員の年齢は結構上だと思います。おそらく区議でいったら、小芝さんと私は同い年ぐらいで今 42 歳なのですけれども、学生とか募集をしたいという時に、若い人たち、学生が入りたいと思うようなアイデアが、我々が考えて果たして出てくるかといったら、なかなか知恵を絞って頑張っても出てこない可能性があります。是非こういう委員会とか審議会をやる際には若者枠といいますか、若い人が入ってこられるような枠を設けていただきたいというふうに思います。すみません、ちょっと今日の答申との関係では違いますけれども、少しご提案をさせていただきました。以上です。

（五十嵐災害対策担当課長）

はい。運営委員会の事務局のほうから、松本委員のご質問にお答えさせていただきたいと思います。まず、奨学金の関係につきましては今後検討させていただきたいと思っております。それとあと、こういった場に若い方を入れるという件についても、消防団事務局さんと話し合って、今後検討させていただければと思っておりますので、よろしくお願いします。以上です。

（森澤委員長）

ありがとうございます。その他にございますか。

（小芝委員）

どうもありがとうございます。私からは２ページ目の人的資源の答申案のオ、赤字の町会・自治会と連携を強化して、若い世代の人員確保と人材育成等で交流を図るというところについて質問といいますか、気になったので手を挙げさせていただきました。と言いますのは、町会・自治会、品川区には 201 のコミュニティがございます。地域によっては、町会の中に青年部だとか、そういった現役世代の方々が入っておられる町会もございますが、一方で、町会の縦のつながり、これが大変に苦慮されている町会・自治会があるのも事実でございます。この辺り、まず、体力があるといいますか、下地のある、若い世代の集まっている町会・自治会であれば、オのところはまさに当てはまるとは思うのですけど、そうでない町会・自治会、コミュニティがなかなか世代のつなぎ目といいますか、つながりが希薄になっているようなところは、正直町会・自治会をつなげることすら大変なところでございます。もう少し広い視野に立って、この人材確保のほう、周知していただきたい、取り組んでいただきたいと思いますけれども、その辺り、もしお考えがありましたら教えていただければと。

（根本品川消防署警防課長）

はい。ご意見ありがとうございます。消防団の方々は地域に根ざしておりますので、消防団の

方々が町会や自治会の構成員になっている中で、募集活動をしていただいているというのは今までもやっているところでございます。それ以外でももちろん学校とか、若い世代に対する募集活動とか、口コミによる募集活動は行っております。地元地域特性を踏まえて、地元の町会・自治会と連携した若い世代、そのお子さん方、例えば、町会・自治会の方もしくは消防団員の方の息子さん、娘さんという方も実際に入団はされております。そういった若い世代の人材確保をするにあたって、町会や自治会に働きかけをするというのも一つの方策というご意見をいただいておりますので、そういった答申案にしてございます。そういうことではなくということですか。

（小芝委員）

まさにそのとおりなのですけども、それはもちろん当てはまるところもあれば、そうでないところもありますので、その辺りが少し気になったもので手を挙げた次第でございます。もちろんそれは、私も今、大井消防団のある分団に入っておりますけれども、当然その消防団のご家族の方が新しく、大学生の方だったと思いますけど、入団されているケースもあります。ただ、一方でなかなか、これもちろん分団にもよるかもしれませんけども、町会活動と消防団の活動を一緒にやられている団員の方というのは、正直私の周りでは結構少ない印象を持っておりました。この町会とのつながりで輪を広げていく、新入団員を広げていくというのは結構地域によってはハードルが高くなっていくのではないのかと思いましたので、手を挙げさせていただいたので、その説明で、はい、承知いたしました。ありがとうございます。

（森澤委員長）

ありがとうございます。おそらくウとかエのその部分というの、さらに別の切り口で若い方々を受け入れて募集していくという視点が必要だというご指摘かと思います。ありがとうございます。はい、お願いいたします。

（臼井委員）

若い消防団を増やすということで、私事になりますけど、・・・、消防団の活動で署のほうで訓練をさせて頂いたり、いろいろなことをやったあれなのかわからないのですけど・・・。はじめは就職先を全然違うところに決めて活動していたのですけど、・・・。それも消防団に入って、地域に、それで町会のほう・・・。私、ここの２ページの４番を意見として出させていただいたのです。こういう形で、やはり地元町会の中で消防団の人を何人か出すということは、すごく地域を知っているので、一番良いことなので、どんどんこの４番のことを区長さんにお願いしたいのは、こういう方針で持っていけるような形をとってほしいと思うのです。ですから、いない・いないではなくて、町会としても一生懸命探してあげる。それで町内を守っていただけるような若い人がどんどん増えることを、私もこれからも頑張って、１人でも２人でも消防団になって消防庁のほうへ就職してくれればいいのではないかと思っております。私事ですけど。それで今日、７日の日に連絡があって、いつから研修のほうに行くかという発表があるので、今ハラハラしているとこなんですけど。はい、以上です。ですから、皆さん地域を守るためには地域の人がやはり大勢出ていただけるのが一番だと思いますので、区長さん、よろしくお願いいたします。以上です。

（森澤委員長）
　ありがとうございます。素晴らしい。消防士さんになられるということ。消防団活動が素晴らしい形で・・・。また、先ほど町会・自治会の中からではなかなか難しいのではないかという話もありましたが、町会・自治会から地域とつながりが強い方々を出していくことも必要ではないかというご意見で賜りました。ありがとうございます。

（松澤委員）
　答申案の取りまとめ、本当にありがとうございます。私から意見といいますか、こういうふうにしたらいいなという部分で。町会・自治会との連携というのは、こちらにまとめて入れてもらったことは大変感謝しております。これ、漠然と連携といってもなかなか難しいのかなと思っていまして、以前から私がずっと言っていることが、聞いていただきたいのが、消防団に入ってくれと言っても、消防団の活動がわからない人にいくら入ってと言っても入るわけがないです。そうすると消防団というのは、ではどういうことやっているか、こういうのをしっかりと教えていかなければいけない。そのために周知活動、広報活動をやられていると思いますが、実際に町会・自治会の例えば定例会とかあるのですよね。僕のすごく個人的な意見だと、消防団というのは火を消す人ではないと思っていまして、私は火事があった時に、地域の人が消防団に入っているからこそ、その人を助けられる。だから地域から消防団が出るものだと、私の個人的な意見なのですが。それが消防団の本来の活動たる所以なのかなという部分で、やはり町会・自治会の会議か何かに、町場の消防団、例えばその町会の方が町会長会議に行く、そういうところに行く、そこで消防団というのはこういう活動をしている、そういうのを消防署と連携をして、消防団活動の意義、そういうのをしっかりと伝えていく。例えば、講習会や総会でもいいのです。そういうふうにしていくことがより強いこういう連携に発展していくのかなと思います。連携という大枠の中の細かい部分に関して、そういう手法も一つかなというのを一つ言わせていただきたいと思います。
　もう一つは、度々いろいろな方からもありますけど、女性団員の参加を促す休憩所スペースやら、備蓄品が多くなったら格納庫というのは喫緊の課題でありまして、いろいろ品川区そして東京消防庁も努力していただいているのは重々知っておりますが、なかなかこういう土地の誘致というのは難しい課題でありますので、少しでもチャンスがあれば是非品川区そして東京都しっかりと連携を組んでもらって、このハード面の整備をより一層やっていただけたらと思います。以上です。

（根本品川消防署警防課長）
　はい。ご意見ありがとうございます。２番の人的資源の答申案のオ、町会・自治会と連携を強化してということを赤字追記させていただいております。また、具体的な連携の仕方は、それぞれ消防団、荏原、大井、品川の地域特性それぞれあると思います。また、先ほどもあったとおり、町会自体の構成員がそれぞれ地域によって違ってきているということもあると思います。例えば品川ですと、地元の町会の会議などに参加した分団長が時間をもらって、その場に出向いて募集

活動、消防団はこういう活動していますよ、皆さんも担い手の力をお貸しくださいということで、直接お話をさせていただきに行っている分団長さんもいらっしゃいます。それぞれの町会の地域特性によって手法は様々あるかと思いますが、地元の町会と連携して消防団の募集活動を行っていくというところが大きなフレームとして大切なところであると認識しております。具体的なやり方、それぞれの分団、消防団に応じて実施させていただいていければいいのかなと思っております。貴重なご意見ありがとうございます。

（阿部委員）

すみません、２度目の発言で申し訳ございません。答申と関わるところでは、あまりなく、直接は関わらないところなのですが、先ほどからの町会との連携というところで常々気になっていることがあります。私も品川消防団の団員であるのですけれども、本当に年末年始の警戒からお祭りですとかイベント、防災訓練、様々なところで出動しております。ただその時に、いつも黙って最初からやって来て、黙々と仕事をして、そしてそのまま疾風のように去って行ってしまうのが消防団でして、参加している方にはそれが消防署員なのか、消防団員なのか、警察官なのか、よくわからないけどそういう人もいるなという感じだと思います。そうした場で、例えば今日は品川消防団第何分団の方にもご協力いただきましたとか、何か一言あるだけで、こういう人たちが一緒にイベントを作ってくださっているのだ・・・。くださっているって、自分消防団でいながら言うのですけど。そうした関係が、実は日常的にあるのだと気づいていただくだけでも身近に感じられるのではないかというふうに思います。あるいは、防災訓練のような、まさに消防団に直結するようなところでしたら、一言意見交換の場を設けていただくとか、少しその活動の場でコミュニケーションが取れるようなことがあるといいのかなと思っております。以上でございます。

（森澤委員長）

ありがとうございます。今のご意見は、また様々な地域の行事等でそういった機会を持てるように検討していきたいと思います。はい、すみません。

（懸田委員）

座ったままで失礼します。今いろいろなご意見をいただいて、答申案というのは飽くまでも総論であって、各論のことを言い始めたらとてもではないけどいろいろパターンがあると思いますので、答申案はこういう形でよろしいのかと思うのですけど、今言ったいろいろなことに３点ばかり意見を述べさせていただきたいのですが。

町会との連携というようなお話がずいぶん出ました。それで、消防署さんのほうからもいろいろなパターンがあるということで、私も町会をやっているのですけれども、町会が万能ではないのです。それで前言ったように、消防団員を、では我々の手で出せと言っても、必ずしもそれぞれの町会によってやり方が違うので、あくまでも答申案は目標ですから、それぞれのやり方でやればいいのではないかと思います。

もう一つ、この中で、答申案の中に入れるか、入れないかは別問題として、施設の問題の話が

出ましたけれども、これ、大規模の震災の時の想定ですので、通常の場合は施設が必要なのですけれども、通常ではない場合は、私は考えるのは移動式のトイレであり、着替えをする場所であり、そういう休憩所を含めた移動式の車でその場所へ行って、その施設代わりをやるというような方法は将来的に考えたほうがいいのではないかと思うのです。固定した施設というのはそこから移動すれば使えないわけですから、やはり移動式の車とかそういうものを東京都さんに頑張っていただいて、そういう整備をやっていただければ、消防団員も安心して、女性の場合は特にトイレとかが困るわけですから、そういうトイレ車とかみたいなのを整備していくという。今消防署員の方、やっているのか知りませんけれども、消防団員の方たちの処遇面でそういう対応も将来考えるべきなのではないかと思いました。それから・・・。それでは２点だけ。あんまり言ってもしょうがないので、すみません、これで終わります。

（森澤委員長）
　ありがとうございます。

（根本品川消防署警防課長）
　はい。ご意見ありがとうございます。移動式の車でという施設整備、資機材整備のお話の中でございました。今消防団の方々にはまだ整備は当然ないのですけれども、災害現場で東京消防庁ではトイレカーというものが整備されました。これは災害現場で、長時間の活動でも、今まではトイレをコンビニで借用したり、近隣のお宅でご協力をいただいてお貸しいただいていたところを、女性の消防隊員も増えたことも踏まえまして、トイレカーというものが整備されております。それはもちろん男性用のトイレもそうですし、女性用のトイレも赤い消防車の中で両方あります。別々で使えるように、かつ、トイレ以外にも女性用のところには更衣ができるものもございます。品川の消防団の方には、この間、４月ぐらいの災害の時にトイレカーを品川消防署隊で応援要請しまして、実際に現場に来ていた消防団の方にはお使いいただいて、実際見学というか、使っていただいた方ももちろんおりますけれども、見ていただいております。将来的にはそういった大きなビジョンとして、消防団員の方々にもそういったものの整備ができれば、消防団の活動がしやすくなるということの将来的なビジョンを、貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。

（森澤委員長）
　ありがとうございます。

（金子委員）
　今日せっかくそれぞれの消防団長がいらっしゃっているので、生のお話をそれぞれの団からお話をいただけたら、我々も何か参考になるのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

（森澤委員長）
　消防団長の皆様、何かご意見ありましたらよろしくお願いいたします。

（高瀬委員）
　荏原消防団長の高瀬でございます。今日は貴重なご意見ありがとうございます。日頃私どもが考えているいろいろなご意見を伺いました。その中で一つだけ。答申案の１の訓練方策については、私たち消防団は署隊とも連携した訓練は非常に常々やっているのですけど、消防団と地元の町会、消火隊、そういう方々との連携した訓練はなかなかできない。しようと思っても場がない。地域の消火隊なんかは、それぞれ放水訓練やられるのですが、個別なのです。そういう意味で連携した訓練をできるような仕組みとか、場を設けていただければ、非常にこれから役に立つのではないかと思っております。よろしくお願いします。

（森澤委員長）
　ありがとうございます。

（武藤委員）
　大井消防団長の武藤です。大井消防団としましては、消火隊の方に消防団に参加していただいて一緒に訓練することを、ここの２年間はコロナでできておりませんが、そういうことをやっております。３月にもその訓練を計画しておりますので、もっとそういうことを踏まえて、町会・自治会と、先ほど出ましたマンションの管理組合等と連絡を取って、そういう訓練を増やして、災害があった時にそういう人たちが町内の防災リーダーとして活躍できるようにしていきたいと思って活動しております。ありがとうございます。

（森澤委員長）
　ありがとうございます。

（平野委員）
　品川消防団長の平野です。いろいろ配布されるものが多いのですが、入れ物が少ないのです。入れるところ。つまり団の本部とか、分団も本部とかが狭くて、積載車もまだ入れられない分団もあるぐらいなので、その辺をなんとか、土地が少ないのでしょう。しょうがないのですが、なんとかできないかと思っています。以上です。

（森澤委員長）
　ありがとうございます。１番のウの部分、町会・自治会と連携した実践的な訓練というところの具体化ですとか、あと、３番のオの部分、資機材の収納等について強化していただきたいというご意見などを承りました。ありがとうございます。その他よろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。また、ご意見いただきましてありがとうございます。今いただいたご意見を踏まえました、文言の修正若干あるかと思いますが、基本的に審議されました答申案で決定をし、本日の審議を終了いたしたいと思います。ありがとうございました。では、進行を司会にお返しします。

４　閉会

（五十嵐災害対策担当課長）

　委員長、ありがとうございました。以上をもちまして、第３回品川区消防団運営委員会を閉会いたします。皆様、お忙しい中をご出席いただきまして大変ありがとうございました。